

# 日本の学童ほいく 普及拡大 ニュース

全国学童保育連絡協議会

みんなで読もう！ 目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2021年12月3日

## 愛知 普及拡大・みんなの取り組み

元気が出る  
みんなの  
取り組みを  
ご紹介

「ほいく誌部会」を結成し『日本の学童ほいく』の普及拡大と魅力を発信！PRキャラクター「がくくん」と「いくちゃん」も応援するよ！

愛知学童保育連絡協議会では名古屋市学童保育連絡協議会とも共同して、ほいく誌部会を結成。購読数の維持や普及、購読拡大、そして魅力発信などに取り組んでいます。例年、普及拡大の取り組みを交流する「普及拡大会議」や、魅力を伝える「ほいく誌交流会」を定期的に開催し、購読の意義や目的の周知、加盟する地域の担当者などとの意見交流も行っています。

最近の活動としては、ほいく誌とともに、愛知学童保育連絡協議会を親しみやすくする、また身近に感じてもらうためにPRキャラクターのネーミングを公募し、「がくくん」と「いくちゃん」と決定しました。今後、様々なチラシなどに掲載し、大活躍する予定です。

(愛知学童保育連絡協議会・ほいく誌部会役員)



がくくんといくちゃんも  
普及拡大を応援しているよ！



全国各地に出張出没か！



このポーズで  
全国デビュー  
するとは・・・

素敵な学童保育のあれ  
これが満載！みんなも  
いっぺん読んでミャー

## 日本の学童ほいく 11月号

特集 たのしく食べる  
おいしく食べる♪

——学童保育のおやつ・食

今回の特集では、コロナ禍の現状もふまえつつ、学童保育や家庭での「おやつ・食」の実際を交流します。そのことを通じて、子どもたちが充実した「おやつ・食」のひとつときを経験できるよう、大切にしたい視点を学び、考えあいます。



# 日本の学童ほいく 普及拡大 ニュース

みんなで読もう目標 3万6000部

2021年12月3日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

## 読者の声

### 岩手県大船渡市●保護者から

2021年5月号の特集「いまあらためてたしかめる 学童保育の保護者会・父母会」を読みました。子どもたちのための学童保育を「創ること」「維持すること」「つづけていくこと」。この三つのためには、人の力が必要だということ、また、人と人とのつながりや協力が不可欠なのだという感じました。

私たちの学童保育は創立5周年。まだ若い学童保育で、私はその設立に携わった一人ですが、そのころに入所したお子さんがしだいに卒業し、保護者会も代替わりの様子が見えているところです。

この特集を読み、学童保育をつづけていくために、これまで以上に、人と人とのつながりを大事にしていかなければと感じました。

（『日本の学童ほいく』2021年9月号「読者のひろば」より）

### 石川県津幡町●保護者から

2021年7月号に掲載されていた関口瞳さんの「おもいで絵日記」を読みました。

私も、学生の頃には友達と毎日のように手紙の交換をしていました。しかし、いまはその機会も減ってしまっています。けれど、たまに届く、季節にあわせた便箋にのせられた近況報告をうれしく思っています。

そしていま、手紙を書いてくれる人が一人増えました。それは息子です。

おぼえたてのひらがなで、「ありがとう」「おしごとがんばってる。ぼくもがんばってるよ」などと手紙を書いてくれることがとてもうれしく、私の宝物になっています。

「大きくなってからも、手紙を書いてくれたらいいのにな……」と思います。

（『日本の学童ほいく』2021年10月号「読者のひろば」より）

『日本の学童ほいく』に連載されている「講座」を読んだことはありますか。もし、読んでいなかったら、ぜひ読んでみてください。新しい気づきが必ずあります。ちなみに僕は、杉田真衣先生の講座「子どもとともに今を生きる」を読んで目から鱗でした。特に2021年5月号の「先の見えない社会に必要なもの」の記事では、自分の存在を肯定してくれる場所（空間）が人生にとってどれほど重要なものなのか、その必要性を改めて感じました。講座の記事にこんな話があります。「長生きしたくない」「できれば三十歳になる前に死にたい」と思っていた庄山さん（仮名）は、たまに会う高校の時の友人と昔話をする中で、いつでも高校時代に立ち返ることができたそうです。こうした思い出は、「不安定で先が見えない生活のなかで、『たしかに私たちはかつてそこにいた』という実感をもたらす地点となり、『そこからこれまで命をつないできたのだ』と自分の人生の軌跡の感触を得ることを可能にしているように見えます」。と書いています。学童保育もまた、子どもにとって「ここにいてもいい」と思え、自分の存在が肯定されていると感じる大切な場なのですね。

私と「ほいく誌」

全国連協役員リレー執筆・  
今月は三多摩の戸塚丈夫さん